



人に学び・物に学び・自然に学ぶ

三室中だより

《学校教育目標》 令和6年度第9号 令和7年1月7日(火)発行
自ら学ぶ生徒の育成 心豊かな生徒の育成 健康でたくましい生徒の育成

さいたま市立三室中学校
〒336-0912 ほんば
さいたま市緑区馬場1-38-2
学校 048-874-2331
FAX 048-810-1125
相談室 048-876-1731
<http://mimuro-j.saitama-city.ed.jp>

言葉を大切に

校長 廣江 剛

令和7年の初春を迎えました。本年もよろしくお願いたします。終業式ではゲームや動画ばかりではなく、年末年始らしいこともしようとお話をしました。私は毎年なのですが、埼玉大学剣道部が行っている寒稽古に朝5時から参加させてもらいました。自分に克つとか鍛えるとかそういった気概はもはやありませんので、同じ趣味をもった仲間に出会い、気持ちのいい汗をかくことが目的です。本校の関係者にもたくさんお会いしました。

さて、年の初めにあたり、皆さんに質問があります。人類が言葉を獲得したのは、およそ10万年から8万年前くらいではないかといわれています。では、一番初めに生まれた言葉は何だったのでしょうか。これは人類の永遠の謎ともいべき難題であり、全く解明されていません。外敵に遭遇した時に「ギャー」というような叫び声をあげ、仲間に危険を知らせようとしたのが始まりという説。裸足で尖った物を踏みつけ、思わず叫んだ「イー」が「イタイ」になっていったという説。好きな人に好意を伝えるために鳥のように歌い、そこに歌詞がついていったという説など、数えきれないほどの説が存在するようです。また、聖書には、「はじめに言葉ありき」（言葉は神であり、初めから存在した）と書かれています。（解釈に諸説あり）

いずれにせよ、言葉は生命の危機や存続にかかわる重要な事柄を仲間に伝えるための、非常に大切な手段となっていったに違いありません。

そして、太古の昔から日本人は「言霊」といって、言葉には魂が宿っており、言うとその言葉が本当にそうなると思ってきました。不吉な言葉を言えばその通りになってしまうから、口に出すことを極力慎みました。日頃からよい言葉を使っていれば、言葉の力でいつか必ずいいことが訪れると思ってきました。それは、非科学的にみえて実はとても現実的です。例えば「自分はできる」と信じて口に出し続けた人と、「自分はダメだ」と思い込んで口に出し続けた人では、どちらがよい結果を生み出しやすいのか、想像に難くないでしょう。また、いつも人の悪口ばかり言っている人と、他人に感謝の言葉を口にできる人、どちらが皆から愛され、幸せな人生を送れるのか、分かるかと思えます。学校では、よく目標を紙に書いたり、掲示したりします。これもまた「言霊」を信じていた歴史の名残です。昨年話題となった大谷翔平選手が高校生の頃に書いたという目標達成シート（マンダラチャート）などは、これに心理学的な要素を加えた進化系といってもいいでしょう。

私たちは、仲間や大切な人達と日々コミュニケーションをとりながら社会生活を送っています。それは、集団で獲物を追いかけていた太古の昔から変わらないのです。そしてその間には必ず言葉が介在し、人は常に言葉と共に生きています。あなたが仲間を大切に、これまで以上に言葉を大切にすれば、きっとあなたの人生はうまくいく。そんな気がするのです。

最後に、本校は今年度創立45周年を迎えました。つきましては、全校生徒を対象にした「三室中学校創立45周年記念PTA特別講演会」を3月10日（月）に開催いたします。生徒たちの心に残る講演会となるよう準備を進めてまいります。楽しみにしててください。